

オログンデ サ元 神 者、インド (1/4)

:

明:

「物事は、その によって明 にされる (アラブの)」。第1部: ヒンズ 教の 神 者から理神 へとなつ、そして敬虔なキリスト教徒との 婚。

目: [事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: オログンデ サ

日4 Jan 2013

集日 14 Jan 2013



アッサラ ム アライクム ワラフマトウツラ ヒ ワバラカ トウフ (あなた方の上に平安と、アッラ のご慈悲、かれの祝福がありますよう)。

虚 は、何よりも真理を 立たせます。キリスト教に出会ったおかげで、私は米国にやっ
て来た6ヶ月 にイスラ ムに入信しました。

私はインド出身で、数々の神々を崇 する人々、つまりヒンズ 教徒たちの中で育ちまし
た。インドのあらゆる路地や街角では、木や石、象牙、さらには金 で作られた偶像を
げる寺院を つけることができます。

私はヒンズ 教徒の家庭に生まれたのではありません。私の は神を信じてはいませんでした。彼らは 神 者だったのです。

は私に、神などいる がないと教えました。子供の私は が言うことは何でも信じました。私は二人を尊敬し、二人が全てを知っている完璧な存在だと思っていました。しかし、私は成 すると、 は全てを知っているのではないことに 付きました。二人は完璧ではなかったのです。そして いも犯しました。

私はある 点で、人生に するいくつかの疑 を抱き始めました。これらの疑 は、大半の人々も同じように持つものであることに いはないでしょう。

人生の意味と目的は何なのか？ なぜ人は善と を ばなければならないのか？
なぜ人は死ぬのか？ 死 には何が起きるのか？

私の は、それらの に する答えを持ち合わせていませんでした。

私は一人で考えはじめ、やがて熟考の末、神は存在するのだという に辿り着きました。それは、神こそが唯一なる真 であるというものでした。

自然界には 和と完全性があり、それは偶然の 物であってはならないのです。

者なしには は存在せず、 造者なしには 造は存在しないのです。私たち人 は偶然でも 化の 物でもなく、 造されたのです。

造主が唯一なる者であるということは、私にとって明らかでした。それが 数の者によるものであれば、力の分裂や仲たがいが起き、混乱と 秩序がもたらされるでしょう。

こうして私は神を信じるようになりました。また、私は所 の清算についても信じました。私たちの行いは、私たちがコントロール出来る唯一のものです。それ以外のことは、私たちには何の力も及ばないのです。

神は私たちに善とを する自由をお与えになったことから、私自身による 、またはいかに振舞うかが非常に重要であることは明白でした。私は心の奥底で、ある日自分の行いのすべてが清算されなければならないことを知っていたのです。神にはすべての力があり、 と を与えることが出来るのです。それゆえ、私は神を非常に畏れました。

私は神を信じていましたが、宗教を持っていませんでした。私は、その人物が良い人であれば、どの宗教に属していようが ないと思っていました。しかし、そういった考え方には重大な欠 があります。とにかく、当 の私には理解がなく、ただ神を畏れる男性を夫として つけたいとだけ思っていました。私は一神 者として、キリスト教徒、ムスリム、またはバハ イ 教徒と 婚したいと思っていました。

私と夫の出会いは、とても わったものでした。彼はキリスト教徒で、米国人でした。彼は知り合って3日目で、私にプロポ ズしたのです。私は彼がとても で、神への畏怖心に ち溢れた人物だと思いました。私たちは 婚しましたが、2 、彼は米国に 国しなければなりません。彼は私をつれていくことが出来なかったのです。私が米国のビザを取得するまで、1年半かかりました。

米国はインドとは非常に なる国です。米国のライフスタイルに するのにはしばらく がかかりました。私の夫は非常に献身的なキリスト教徒でした。彼は「ワ ルドワイド チャ チ オブ ゴッド」のメンバ で、定期的かつ 繁に、ときには 狂的にバイブルを みました。彼は安息日を守り、セブンスデ アドベンチスト 教会の集会にも行きました。私は彼と一 に数回、教会に行ったことがあります。またバイブルも み、私が神について信じていたこととの共通点も 山 しました。私は「神への畏怖心は、英知の始まりである」という格言が好きでした。教会では 山の良い人々に会いました。そして数人の 友も出来ました。私は特に、年配の人々に 着を感じました。物事はすべて に行っているかのように えました… 理の家族を ねにカリフォルニアに行くまでは。

それは、私がロサンゼルスへ向かう地下 に っていたときです。 かが し、 客にチラシを配り始めたのです。手元に配られてきたチラシに目をやると、そこに かれてあることに 愕しました。私はそのチラシを丁 に保管しました。それにはこう かれていたのです。「救 されるためには、何をしなければならないのでしょうか？」

この 事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/1561>

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。